

(学校番号004) 令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【谷田小学校】

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	R5年度さいたま市学習状況調査の国語や算数の「知識・技能」にかかわる領域について、R4年度の自校の結果より2pt向上させる。	⇒ 授業の際にはこの領域を重視するとともに、ICTタイムや授業で「ドリルパーク」等を活用し、漢字や計算等の基礎基本の反復に取り組む時間を確保する。
思考・判断・表現	R5年度さいたま市学習状況調査自校結果より国語・算数の「思考・判断・表現」の平均無解答率を1割下げる。	⇒ 文章を正確に読みとる力を高めるように、丁寧に指導するとともに、教科や単元に関わらず、学習したことを生活の中で身近なものとして活用できる指導を行う。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度さいたま市学習状況調査の「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合を93%以上にする。	⇒ 各教科において、子どもが自らの学習状況を振り返ることができ発問をし、子ども自らの考えを整理して記述し話し合ったり、プレゼンしたりする場面を設定する。また、他者との協働を通じて自分の考えを比較・検討し見直す場面も設定する。

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
全国学力・学習状況調査結果 国語：－2 算数：－4	
知識・技能	R5年度全国学力・学習状況調査の「知識・技能」において、自校の結果は、全国平均と比較すると国語6pt、算数7pt上回っていた。一定の基礎・基本の定着が見られたが、国語では、学年別漢字配当表に示されている漢字の同音異義語で誤答する児童が多かった。算数の「変化と関係」の領域では、割合の定義を理解していない結果が見られた。今後更なる基礎基本の定着を徹底していきたい。
思考・判断・表現	国語の「書くこと」では、図表やグラフなどを用いて自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することが苦手な児童が多い。また、算数の「図形」の領域において、図形の面積の公式や意味を理解しているが、自分の言葉で説明することが苦手な児童が多い傾向にある。授業の中で、自分の考えを整理して表現できる場面の設定を、継続してしていきたい。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目の、肯定的な回答の割合は目標値に達することができた。今後も、子どもがのびのびと主体的に学べる環境の充実に努める。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	変更なし	⇒ 変更なし
思考・判断・表現	変更なし	⇒ 変更なし
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒ 変更なし

④ さいたま市学習状況調査結果・分析			
小3	国語では、昨年課題であった我が国の言語文化に関する事項は、類似問題の経年での比較により、正答率の上昇がみられた。話すこと・聞くことの領域に課題がある。算数では、昨年課題であった測定の領域は、類似問題の経年での比較により、正答率の上昇がみられた。数と計算、図形の領域に課題がある。	小4	国語では、市の平均点を1.9pt上回った。昨年の課題であった我が国の言語文化に関する事項は、市の平均点より12pt上回った。算数では、市の平均点より2.3pt上回った。しかし、昨年と同様に、図形とデータの活用領域が課題である。
小5	四教科ともに、市の平均点を上回った。国語では「話すこと・聞くこと」、算数では「変化と関係」、理科では「生命」を柱とする領域が課題である。また、国語では主語と述語の関係の問題、算数では単位の関係の問題、社会では、世界における我が国の国土の位置の問題、理科では、解剖顕微鏡の問題の正答率が低い傾向にある。	小6	四教科ともに、市の平均点より大きく上回った。また、4教科ともに無回答率がとても低く、最後まで取り組む姿勢がみられる。しかし、算数の線分図の問題、社会では条約に関する問題、理科では実験器具の問題の無回答率が高く課題である。

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	令和5年度全国学力・学習状況調査では、自校の結果と比較すると、昨年度よりも算数では0.1pt上回ったが、国語では0.2pt下回った。授業で該当領域については、丁寧に指導を行った。また、朝のPTタイムで、ドリルパークやプリント等で基礎基本充実を図った。	B
思考・判断・表現	令和5年度全国学力・学習状況調査では、自校結果と比較すると、「思考・判断・表現」において、無回答率が国語は5割、算数は7割下がった。文章を読み取る力を高められるように、丁寧に指導を続け、自信へとつなげることができた。	B
主体的に学習に取り組む態度	さいたま市学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合をほぼ90%を上回った。総合的な学習の時間でSDGsについて取り組み、クラスを超えて発表したり、他の教科でもプレゼンを行ったりと、自分の考えを比較・検討する場面を多く設定した。	B

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	国語では、「既習した漢字」及び「主語と述語の関係」について課題がある。また、算数では、「単位量」、理科では「用具の操作方法」に課題がある。授業の際にはこの単元を重視するとともに、ICTタイムや授業で「ドリルパーク」等を活用し、漢字や計算等の基礎基本の反復に取り組む。
思考・判断・表現	国語では「読むこと」、算数では「図形」、社会では「地理的環境と人々の生活」、理科では「エネルギー」及び「生命」を柱とする領域に課題がある。文章を正確に読みとる力や資料の見方を高めていくとともに、教科や単元に関わらず、学習したことを生活の中で身近な生活の中で活用できる指導を行う。
主体的に学習に取り組む態度	「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目では、昨年度と同様、高い水準で肯定的な回答が得られた。子どもが自らの学習状況を振り返ることができ発問をし、子ども自らの考えを整理し記述したり話し合ったり、プレゼンする場面を設定する授業を展開する。そして、令和6年度全国学力・学習状況調査及びさいたま市学習状況調査の同じ質問項目において、肯定的な回答の割合を95%以上にする。

※評価
A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)